



白河二中だより

NO. 33
2023. 12. 8
白河市立白河第二中学校
発行責任者 小野 聡

地域のために

2学期のまとめの時期になりましたが、今学期は各種大会やコンテスト等においてたくさんの表彰等があり、さらに、学習面でも授業に意欲的に臨む姿はもちろん、先日実施した計算コンテストにおいても、昨年度よりも合格率（1年生92.5%、2年生90.2%、3年生82.2%）が高くなるなど、あらゆる場面で子ども達の継続して努力する姿が見られています。

また、本校の「経営・運営ビジョン」には、「人のために尽くす心と態度を育てます」と掲げてきましたが、地域の方から、本校生徒の行いについてお褒めの言葉と御礼の言葉が2件届きましたのでお伝えします。

1件目は11月22日（水）に、「赤信号であるにもかかわらず、イエローハットからスタンド側へ横断歩道を渡ろうとした高齢者を見かけた本校生徒が、自転車を降りて高齢者に駆け寄り、安全を確保した。」という内容でした。

2件目は、11月27日（月）の「風の強い日に、新白河のマンションの自転車置き場の自転車が倒れていたのに気づき、自転車から降りて、きれいに並べ直したジャージ姿の3人にお礼を伝えてほしい。」というお電話でした。

避難訓練の際には、自分の命を確保したなら、次は地域の方々にも目を向け、「共助」の心で「自ら気づき、考え、判断し、行動してほしい」と話していますが、まさに具現化された行動だと思います。今後も、このように人のために尽くすことのできる白河二中生の姿を見続けたいと思います。

「ダメ。ゼッタイ。」

11月29日（水）、3年生を対象とする「薬物乱用防止教室」を行い、白河警察署生活安全課の深谷由香さんに講話をいただきました。

深谷さんからは、たばこ、お酒、違法薬物の我々人間の身体に及ぼす影響や害などについて詳しい説明があり、大麻や覚醒剤の使用防止を求めるDVDから、その恐ろしさを子ども達は強く感じることができました。

また、予期せぬ場面に遭遇したときは、勇気を持って「はっきり断ること」「その場を離れること」「連絡を取らないこと」が大切だと教えていただきました。

某大学の違法薬物使用による逮捕事案など



も報道されたばかりです。正しい判断で行動できるよう家庭でも話題にしていただけだと思います。

「いじめ」を考える

11月30日（木）の生徒集会では、生徒会が中心となり問題提起した「いじめの境界線」について話し合いを持ちました。パネリストとして1年生は宮川大嗣君、安田渚央君、2年生は菊地大雅君、猪越せなさん、3年生は十文字栞君、山形弥流君が意見を発表し、また、フロアからも自分の考えを伝えるなど、学校全体で真剣に話し合いました。

また、人権擁護委員の佐藤正弘様から、「いじめのないクラス、学校にするために、「人はみんな違うことを心からわかることが基本であり、お互いの違いを尊重すること、思いやりや相手の気持ちを気遣うことが大切。」とお話しいただきました。一人一人の人権を守り、生き生きと生活できる白河二中にしていきたいと思っています。

